

令和 5 年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・CAN-DOリスト形式による学習到達目標の整備状況の向上
- ・タブレット端末等のICT機器を活用した言語活動の充実にむけた授業づくりの推進

1. 現状

改善が進んだ点

- ①高学年の授業において、英語による言語活動を50%以上行っている割合が高い。
- ②半分以上の授業において、児童がICT機器を活用して言語活動を行ったり、発話や発音を録音・録画したりする学校が増加した。

未だ改善が必要な点

- ①学習到達目標（CAN-DOリスト）の整備状況について、全ての項目について目標値に達成しておらず、活用が不十分である。
- ②英語の授業において、児童による1人1台端末について、活用している頻度が低い。

2. 分析

- ①「自分の意見や考えを伝えることを大切にした授業づくり」の大切さについて、各研究会等で伝えてきたため、言語活動を中心とした授業づくりが浸透している。
- ②授業でのICT活用の実践紹介や、「授業づくりの工夫について学ぶ研修を行い、ICT機器の活用を推進した。

- ①学習到達目標（CAN-DOリスト）について、「公表」と「達成状況の把握」に関しては、指導と評価の一体化の観点から活用方法と意義について、より具体的な実践例を示し理解を深める必要がある。
- ②学習者用デジタル教科書について、その有用性や活用事例の周知が不十分である。

3. 施策・事業

- ①**新規採用試験における外部検定試験の加点**
一定の英語力を有する教員の採用を増やし、外国語を指導できる小学校教員の確保に向けた取組を進める。

①小学校外国語教員対象研修の開催

CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定および活用についての理解を広めるため、その設定方法や評価等の活用についての研修を動画及び集合型で行い、県下小学校への周知に努める。

②「英語教育推進事業」による授業改善

学習者用デジタル教科書およびタブレット端末の活用を通じた授業実践を推進するため、県指導主事が、年間を通して授業づくりのサポートを行う。

（対象は、小学校3年生～6年生とする。）

児童一人一人の協働的な学びと個別最適な学びの実現のために、学習者用デジタル教科書およびタブレット端末の有効活用について、研究実践することで、県内小学校での活用推進に努める。

令和 5 年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・CAN-DOリスト形式による学習到達目標の整備状況の向上
(目標値 作成：100%、公表：100%、達成状況の把握：100%)
- ・授業における生徒の言語活動時間の充実 (目標値 90%)

1. 現状

改善が進んだ点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動時間が増加した。
- ②学習到達目標 (CAN-DOリスト)について、100%の学校が「作成」している。「公表」と「達成状況の把握」について、できている学校の割合が向上した。

未だ改善が必要な点

- ①学習到達目標 (CAN-DOリスト)の「公表」と「達成状況の把握」が不十分である。指導と評価の一体化に課題が見られる。
- ②小中連携
小中連携して、英語教育に取り組む必要がある。
- ③英語の授業において、タブレット端末を有効に活用できていない。

2. 分析

- ①県が授業づくり研修を行い、授業で「目的・場面・状況」設定の具体的な事例を示したり、研修動画を配信したりすることで言語活動時間が増加した。
- ②県が主催する研修等でCAN-DOリストを活用しての授業づくりについて周知したため。

- ①学習到達目標 (CAN-DOリスト) について、「公表」と「達成状況の把握」に関しては、指導と評価の一体化の観点から活用方法と意義について、より具体的な実践例を示し理解を深める必要がある。
- ②コロナ禍のため、学校間の連携の機会が減っていた。
- ③学習者用デジタル教科書について、その有用性や活用事例の周知が不十分である。

3. 施策・事業

- ①**授業づくり研修の実施**
外部検定試験の全額補助 (中学 3 年)
小中連携による言語活動を中心とした授業づくり推進のため、発問の工夫や、目的・場面・状況を設定し、生徒が思考する授業づくりを推進するための研修を集合型で行う。その際、外部検定試験 (GTEC) の結果分析資料等をもとに、生徒の学習改善と教師の指導改善について、話し合う。学習到達目標 (CAN-DOリスト) の活用についても、協議する。
- ①**「英語教育推進事業」による授業改善**
学習者用デジタル教科書およびタブレット端末の活用を通じた授業実践を推進するため、県指導主事が、年間を通して授業づくりのサポートを行う。
生徒一人一人の協働的な学びと個別最適な学びの実現および、小学校英語教育との接続を意識した授業づくりのために、学習者用デジタル教科書およびタブレット端末の有効活用について、研究実践することで、県内中学校での活用推進に取り組む。

令和5年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びの視点から、単元目標達成のための効果的な言語活動を取り入れた授業を展開することで、「生徒の英語による言語活動時間の割合」を65%に、「授業における、英語担当教師の英語使用状況の割合」を60%となるようにする。

1. 現状

改善が進んだ点

①・・・「CAN-DO」リスト形式の学習到達目標の整備状況について、「公表」について前年度37.5%から92.3%に、「達成状況」の把握は66.7%から100%に大きく上昇した。
②・・・スピーキングテスト・ライティングテストの両方実施した割合が52.2%から57.1%に上昇した。

未だ改善が必要な点

①・・・授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合(50%以上の時間、言語活動を行っている)が、44.7%と目標値を下回っている。
②・・・授業における、英語担当教師の英語使用状況の割合(発話の50%以上を英語で行っている)が47.7%と目標値を下回っている。

2. 分析

①・・・指導主事訪問の際に、指導と評価の一体化に向けた授業改善に焦点を合わせた指導・助言を行った。また、各学校が観点別学習状況の評価に向けて、指導方法と生徒の達成状況の検証に取り組んだ。
②・・・パフォーマンステストの実施状況の聞き取りを行い、事例などを県内の学校に共有した。
①・・・「教科書を教える」から「教科書で教える」ことへの授業への転換ができていない場合が見られ、単元目標達成のための言語活動が段階的に実施されていない。
②・・・②の割合は①の割合と連動するため、①の割合が低下することにより、②の割合も低下していくことが考えられる。

3. 施策・事業

①・・・引き続き、指導主事訪問等で学習到達目標の活用について推進し、生徒の達成状況を授業改善に活かせるよう指導・助言を行っていく。
②・・・指導主事訪問や教科主任のグーグルクラスルーム等で各校で実施しているパフォーマンステストの状況を調査し、優れた事例、評価方法を集約・整理して県内の学校に共有することで、授業改善につなげるためのパフォーマンステストの意義の理解を深めていく。
①・・・題材内容をもとに生徒の意見や考えを引き出し、英語で表現していくことを大切にした授業や発問を重視した授業、ディベートなどを取り入れた授業を推進していく。ディベートについては、県内で5回程度研修会を開催し、各学校で「論理・表現」の科目等でディベート活動を実践できるよう支援していく。また、言語活動を促すようなICT機器の効果的な活用方法についても、各学校の事例を集約し、共有していく。
②・・・単元目標達成のために①の言語活動を効果的に取り入れた授業を推進していくとともに、英語の使用状況が低い学校には、学校訪問等で英語使用状況を改善していくよう指導する。